北海道たのしい授業講座での分子模型づくり

2006.1.27　小樽分子模型の会　斎藤一郎
ichirokasetu@yahoo.co.jp　http://www17.plala.or.jp/ichirokasetu/

2006年１月10日～12日に札幌のホテルユニオンで北海道たのしい授業講座が行われました。ボクは《燃焼》と《もしも原子が見えたなら》の講座を担当しました。また，いつものように「いつでもものづくりー分子模型作り」も担当しました。

エレベータ裏は不思議な空間だ

10日は午後から始まりました。いつもだと講演があるので，そのつもりでいたら，いきなり講座が始まりました。講座に参加しない人は「いつでもものづくり」に行くので準備をしなきゃと思い，ボクのコーナーに行きましたが，みんな講座に行ったようで誰もいませんでした。それから全体会会場を散歩したり，分子模型作りの道具を出したりしました。

講座が終わると参加者がちらほらとやってきました。でも，エレベータ裏に分子模型作りのコーナーがあることを知らない人が多く，びっくりしていたようです。

そうこうしているうちに苫小牧の酉田さんが分子模型を作りに来てくれました。彼女はボクが初めて担任した生徒さんで，まだあの頃は仮説実験授業も分子模型も知らなくて，勢いで授業をしてた頃でした。彼女が中３の冬に旭川で行われた体験講座にボクは初めて参加したのですから。でも，旭川の岸さんに《生物と種》の道具を借りて，３学期に授業した記憶はあるんですよね。酉田さんは大学の頃の友人を連れてきてくれました。３人でのんびり話をしながら，分子模型を作ってくれました。

次に，室蘭の田中さんや帯広のゆにちゃん，また函館の方が分子模型を作りに来てくれました。田中さんは夏のフェスティバルでも分子模型作りをしてくれた方で，今回はセルロースに挑戦です。ゆにちゃんはとっても元気で，ひたすら水を作っていました。田中さんはセルロースの次に砂糖にも挑戦してくれました。そして，12時過ぎに会場が閉まるまで作ってくれたのでした。

なんと寝坊してしまいました

11日は午前中に《燃焼》の講座を札幌の古山さんと担当することになっていましたが，朝，寝坊してしまいました。古山さんに連絡し，とりあえず講座を進めてもらうことにして，会場へ急ぎました。なんとか15分位の遅れで講座の部屋に着くことができましたが，小樽の神山さんや札幌の菱さんなどにも迷惑をかけてしまいました。すみませんでした。講座自体は第１部を体験してもらい，第２部は用意した資料を使いながら，注意の必要な実験について説明したり，見てもらったりしました。分子模型も用意していきましたが，できるだけ分子模型の説明は少なくし，講座を進めました。その方が初めて授業書をする方々にとってはわかりやすいだろうし，準備しやすそうだと思ったからです。まずは授業書をやってみるのが一番だと思うので，そう言う説明を心がけました。

午後のガイダンスの時はのんびりと過ごしました。「いつでもものづくり」とはなっていましたが，結構暇な時間が多かったです。

ガイダンス後に《もしも原子が見えたなら》の講座を札幌の小笠原さんと担当しました。《もしも原子が見えたなら》は実験のない授業書で原子や分子の図に色を塗ったり，説明を読んだりしながら進める授業書です。いろいろな分子模型をボクは用意して，授業では使っていますが，初めて授業書をする人にとっては，最初からすべての道具を用意するのは大変だろうと思い，できるだけ分子模型の説明を省きました。講座で配った１億倍の空気の分子模型が１セットあれば，それだけでも授業書を行うことができるはずですから，できるだけ簡単に始めることができるというイメージを持ってもらいたくて，最低限の道具だけでできるように説明したつもりです。講座に参加してくれた方で，１人でも良いから授業書をやってくれると良いなーと思い，説明しました。

《もしも原子が見えたなら》の講座が終わり，道具を片付けて分子模型作りコーナーに戻ると，何人かが分子模型を作っていました。中には《もしも原子が見えたなら》の講座に参加してくれて，他の分子模型も欲しくなったと言って来てくれた人もいました。この日も12時過ぎまで，何人かが必ず分子模型を作っていました。全体会会場では楽しげに話しているのに，そこに参加せず分子模型を作ってくれるというのはとてもありがたいことだと思っています。

分子模型作りは必要な分子模型が出てきたときにいつでも気軽に作れるととても良いと思います。普通はペンキを塗ってまで分子模型を作ろうとは思わないということに最近気づきました。であれば，ボクは焦らず，やれることを地道にやっていくだけだと思いました